

平成27年度 第1回新宿区産業振興会議 議事要旨

【日 時】 平成27年5月19日(火) 午後6時～8時

【場 所】 BIZ新宿(区立産業会館) 研修室A

【出席者】 委 員：植田、河藤、川名、松尾、下吹越、前田、志村、加藤、富田、酒井各委員

事務局：太田産業振興課長、橋本文化観光課長、菊地新宿観光振興協会事務局長、黒澤産業振興係長、
久野主任主事、後藤産業創造プランナー

【欠席者】 益田、北村、坂倉各委員

【傍聴者】 1名

【配布資料】 省略

【内 容】

1 開会

2 議事

- (1) 産業振興会議第2期 報告書(案) 説明
- (2) 産業振興課、新宿観光振興協会の事業について
- (3) 報告書(案) についての意見交換
- (4) 新宿区総合戦略の作成にあたって(企画政策課から)

3 主な発言内容

○報告書の構成

- ・第1章から第6章のうち、答申しているのはどこからどこまでなのかがわからない。第1章は諮問を受けたこと、臨んだ体制と展開した議論とし、第2章から6章までが答申だと分かるようにした方が良い。第6章まで読まないで答申の内容が分からない形になっているので、最初に骨子を入れてビジュアルなチャートを出したら良いのではないかと。
- ・産業振興会議設置後の新たな産業振興の取り組みや地域における取組は報告書において重要な点である。答申の内容には入らないと思うが、資料編から切り離してもう少しくローズアップさせてはどうか。報告書の構成を「答申」「新たな取り組み」「資料編」とパターン化して、每期それに沿って作成すれば、どのような答申であっても、新たな取り組みをローズアップすることができると思う。
- ・第2期の答申は観光と一体となった観光振興というのが大きな軸であると思う。第4章は広義の観光関連産業の説明を受けて、具体的な方策として方向性と取り組みが数ページに渡って記載されているが、非常に冗長的で最後まで読んでいかないと良くわからない。方向性と取り組みは全体がわかるフローがあると良い。

○新宿らしい産業振興・新しい産業づくり

- ・「新宿区産業振興施策の課題」の中に「ものづくり産業の支援が中心で、新宿区に集積のある第3次産業の支援が少ない」とあるが、この書き方ではものづくり産業ばかり支援しているように受け取れるので、「新宿区に集積がある第3次産業の支援をしていなくちゃいけない」とか、「ものづくり産業の支援も続けていくが」などの表現が良いのではないかと。

- ・「地域貢献やCSRによる活性化」は、「企業活動における社会的な、企業活動を通じた地域に対する貢献、地域活性化につながるような企業活動といったものを積極的に支援していく」という議論であったと思うので、そのような表現に変えてはどうか。
- ・「テーマの選定、具体化」の内容は、幅広い層からの意見交換の重要性であると思う。タイトルと内容が合致していないのでタイトルを変更したほうが良い。色々な層と接点を持ちながら、意見を聞いていくということが大切であるということが分かるように書き換えていく必要がある。
- ・「チャレンジ精神を持った企業の支援」の部分は、土壌を作り、チャレンジ精神をもった企業を増やし、接点を増やし、企業のレベルにあった支援を行うという順番で階層があがっていくという書き方であるが、文章ではなくビジュアルで表現をしてはどうか。検討したことを受けた施策に続くような書き方にし、流れに沿って説明するとわかりやすいのではないかな。
- ・議論の中に「キーマン」という言葉が出てきていたが本文には使われていない。人材の育成のところに議論した内容が出てきてはいるが、「キーマン」という言葉が議論で出てきた時には、「新しい産業や企業を起こしていく人材」と、「業界やネットワークなどの柱になっていくような人たち」という二つの意味があったと思う。後者の方は、これから業界団体や商店街組合の中心を担っていく人をどうしていくのかということなので、追加で記載したほうが良い。
- ・高田馬場創業支援センターは、チャレンジする企業を作るという部分で大きな役割を担うと思う。「チャレンジ精神を持った企業を支援する」というところでもう少し触れたほうが良い。

○観光と一体になった産業振興

- ・「新しい地域経済、新しい産業をつくる、持続性のある地域産業力をつける」と書いてあるが、持続性のある地域産業力というのがわかりにくい。「持続性のある地域産業力」というのがとても曖昧で、これを企業が考えるのか、それとも新宿区としてある程度定義づけなければいけないところなのかをはっきりさせたほうが良いのではないかな。企業が考えるにしても、実際にオリンピックがどのような波及効果を持っているのかわからないし、特に中小企業の多くはオリンピックに対してそれほど意識していないと思う。
- ・「持続性のある地域産業力」とは、東京オリンピック・パラリンピックを契機として、持続可能な地域経済、地域産業力の仕組みづくりをしていくということではないかな。
- ・東京オリンピック・パラリンピックをチャンスとして、一時的にはあるが、需要が拡大するというのはあると思う。「拡大していく需要をうまく活かし、先を見越して次の時代に結び付けていく。それをチャンスとして考えていく」という文言を入れた方が良いと思う。区として何が出来るかというのは考えなくてはいけないが、情報の提供や場を作っていく必要があると思う。
- ・「安全安心のまちの推進」は、今後の施策にどう反映するか、今までの議論とどう絡むかということが重要ではないかな。商店街の安全安心の取り組みや、秩序だった賑わい、例えば歌舞伎町の猥雑さについて会議で議論してきたことを安全安心に絡めた書き方にすれば良いのではないかな。
- ・安全安心については、記載のままでは違和感がある。観光と一体となった産業振興を進めていくための環境整備という項目を立ち上げて、Wi-Fi化など情報基盤の整備と並行する形で、安全安心の部分に記載し、量もバランスをみて書き直す。

○商店街

- ・商店街は非常に重要であるという議論してきたので、もう少し入れ込んでいく必要があると思う。観光と一体となった産業振興の方向性と取り組みの中の「来街者の受け入れ態勢の整備」に、商店街の態勢を強化していくというのが入ってきて良いのではないかと。「チャレンジ精神の担い手を育てる」というところでも、実際の取り組みをみても商店街の文言が入ってしかるべきだと思う。商店街が重要だと位置づけることで、商店街も変わってもらわないといけないということを意識づけることが必要だと思う。
- ・地域文化歴史資源の掘り起しのところで、商店街にも歴史があるということが議論されていたと思うので、ここにも加えたらどうか。

○その他

- ・新宿区にはIT関連企業が多いがあまり触れなれていない。ものづくりなのか、第3次産業なのか難しいところであるが、ITはARなど観光にも絡み、情報発信だけではなく、ものづくりにも絡む場合がある。ICTが新宿区の産業にとって重要な産業であると、どこかに書き加えていただきたい。
- ・産業振興会議での議論は、産業振興課所管の事業がブラッシュアップされていくと考えている。議論した内容は少しずつ事業に盛り込まれているとは思いますが、「観光と一体となった」というのが、新宿の特徴や良さを活かした産業施策であると思う。産業振興課の事業案内の大きな章立てが変わっていくぐらい、インパクトのある議論の成果が欲しい。特に23区で宿泊施設が一番多いのが新宿区なので、宿泊をさらに集客につなげていくことが「観光と一体となった」ということであるなら、飲食や宿泊の企業の支援も考える必要があるのではないかと。

4 次回日程について (予定)

○産業振興会議

日 時：平成27年7月8日(水) 18:00から

会 場：BIZ新宿 多目的ホール

○区長への答申

日 時：平成27年8月4日(火) 9:00から

会 場：新宿区役所本庁舎 3階 区長室

5 閉会